

特集

## タイ洪水奨学金 5000キャンペーン

- カンボジアの洪水被害
- タイ・子どもたちの時間割
- 書き損じハガキで支援する企業
- 沖電気工業株式会社



# 日本でタイ洪水奨学金

タイ洪水で  
就学困難な子どもが  
増加する一方、



タイ国内の  
支援者が減少

7月半ば以降、連続して起こった豪雨などが原因で発生した洪水は、日本企業が進出しているタイ中部の工業団地を冠水しつつじわじわ南下し、10月下旬にはバンコクが浸水しました。被害総額はタイの国内総生産(GDP)の1割に相当する約3兆5000億円。死者は700人以上で、失業者は100万人にのぼると推計されています。

ダルニー奨学金の対象地域であるタイ東北地方(イサーン)の主に南部で大規模な洪水が発生し、家庭や学校に大きな被害が出ました。仕事を失ったり、育っていた米の収穫を諦めたりする農家も少なくありませんでした。冠水した学校では、1階にあった机や椅



子、図書室の本やコンピュータ室のパソコンなどが使えなくなり、中間休みの後、11月からスタートするはずだった新学期を延期した学校もありました。

また、経済的に貧しい東北地方からバンコクなどの都市部に出稼ぎに出ていた人は多いのですが、工場の閉鎖と、それに伴う周辺の経済活動がストップしたため収入が途絶え、家族への仕送りが滞っていました。一方、これまでタイ国内で奨学金を支援していた方々自身も被災され、今後の奨学金の提供が難しくなりました。洪水により奨学金を必要とする子どもが増加しながら、奨学金数が減少するという危機的な状況に陥っています。

# 5000キャンペーン展開



写真はいずれもタイ東北地方の中学校

こうした状況を踏まえ、民際センターではタイにおける、被災した支援者が約1,000人。一方、12月末時点での支援者数より約4,000人少なかったため、2012年度タイ奨学金を締切日の3月20日までにあと5,000人集めることを目標に、1月より「タイ洪水奨学金5000キャンペーン」をスタートさせました。さらにその一環として、書き損じハガキなどを集めて支援する「緊急リサイクル支援キャンペーン」(2月29日まで)や「お見舞いセット」(同封チラシ参照)も広く呼びかけています。

タイ洪水の被害状況をご理解をいただき、さらなる皆様のご支援をよろしくお願ひ致します。



## 洪水被害状況

- 被害総額：3兆5,000億円
- 死者：700人以上
- 失業者約：100万人
- 冠水した学校：約2,600校
- 冠水した工場：930

教育省、産業省、労働省等発表資料によるタイ事務局の調査

## 工場が閉鎖して仕送りできない両親



2012年度の奨学金に応募しているティラワット・ドクマイさんは、シーサケット県にある小学校の6年生で、祖母と同年齢の4人のいとこと暮らしています。祖母は、以前は機織りで収入を得ていましたが、今は高齢で視力も落ちたので仕事ができません。

そのため、一家の収入は、バンコクに隣接するパトムターニー県へ日雇い労働者として働きに行っているティラワットの両親からの仕送りと、祖母の年金500バーツ（1バーツ=2.8円）だけですが、両方合わせても、月2,000バーツを超えることはありません。

2011年10月、両親が働いている工場が洪水のため冠水し、工場は休業せざるを得ませんでした。そのため、ティラワットさんの家族（6人）は、祖母の年金500バーツだけで暮らさなければならなくなりました。出来高制で働く両親の会社の倉庫は1階建てなので、在庫部品がすべて損失してしまい、従業員はそれ以後、仕事がなくなりました。お父さんはタクシー運転手などを瞬時にして自らの生活費を得ていますが、送金できる余裕はなく、仕送りが途絶えてしまいました。「子どもにはなんとかして教育を」と思っている両親は1日も早い工場の再開を待っています。

## 畑も菜園も洪水で被害を受け、食べるものがない

両親に捨てられ、祖母と生まれつき障がいを持っている伯父と暮らすアティッタヤー・サーライサイさんはロイエット県の小学校に通う6年生です。彼女は自分の本当の両親の顔を見たことがありません。手紙やお金を送ってくれたこともありません。家族が生活していくための主な現金収入は、年金と障がい者手当の合計月1,000バーツだけです。ただ、祖母には小さな田んぼがあり、家族が食べる分のお米をなんとか得ることはできます。

アティッタヤーさんの家を襲った洪水は1メートルも冠水し、小さな家庭菜園も田んぼもすっかり水に

## 洪水で仕事を失い、収入を失う

ピヤチャート・ノンタワンさんは小学校6年生で、ウボンラーチャタニー県の小学校に通っています。彼女の家族は祖父母と妹2人の5人。彼女の両親は何年も

前に離婚し、祖父母と彼女、小さな妹たちの前からいなくなりました。そのため、祖母が観光客に地元の果物などを売って、日に100-150バーツの収入を得ています。祖父は60歳を過ぎており、政府から毎月500バーツの年金が支給されています。また、週末には、生活費を得るために、ピヤチャートも近くの飲食店でウェイトレスとして働き、1日70~100バーツの収入を得ていました。

しかし、洪水が起きた10月から観光客もいなくなり、彼女も祖母も収入を失いました。11月中旬には少しづつ水が引き始めましたが、それでも大量の水が流れ込み、元の生活に戻ることができていません。そして、3ヶ月もの間、この家族には収入がない状態が続いています…。洪水後、数週間で、家族の蓄えは全てなくなってしまい、今では、地方自治体の援助でやっと生活している状況です。「このままの状態が続けば、中学校の就学を諦めなめて働かなければ…」。ピヤチャートさんは自分の将来に不安を感じ始めています。



浸かってしまい、知り合いの家に避難しました。

「苦労ばかりしているおばあちゃんとおじさんを思うと、かわいそうでたまらない。おばあちゃんは『来年は食べるお米がないんだよ、種もみも残っていないから新たに米を植えることもできないんだよ。

借金をして米を作ろうにも、返済できる当てがない。年取った私や障がいがあるおじさんにお金を貸してくれる人なんかいないよ』と言います」とアティッタヤーさんは自分たちの生活の苦しさを語ります。

彼女には医者になりたいという夢がありますが、中学校に通えるかどうかかも定かではありません。

## タイ事務局(EDFタイ)から 事業部長のプーと 総務部長のナーが来日



洪水5000キャンペーンで記者会見を開きました。



東京・新橋駅前で街頭募金活動を行いました。



収入のない家族の  
子どもの将来は

タイ事務局(EDFタイ)  
専務理事  
サンペット

経済的に貧しいタイ東北地方では、多くの家族が出稼ぎに出て仕送りしています。それが生活を支えていました。しかし、洪水でたくさんの出稼ぎ者が仕事を失いました。失業者の6割は東北地方出身者という統計もあります。

もともと貯金がなく、しかも仕事を失った家族の子どもは、収入を得るため学校をやめてしまうケースが少なくありません。こうして、義務教育すら終了できない彼らの将来の選択肢は限られ、貧困の連鎖から抜け出すことができなくなります。洪水で子どもたちの夢や希望までが流されないように、なんとか彼らの就学を支援したい。そのため民際センターもタイ事務局(EDFタイ)も全力で支援を呼びかけています。こうした状況をご理解いただき、日本の皆様からのより一層のご支援をよろしくお願ひいたします。

## 募金の 報告

10月25日からTポイントで「タイ洪水緊急支援募金」がスタート。12月末までに1,089,803円のご寄付が寄せられました。民際センターに寄せられた寄付は1,717,906円になりました。また11月13日、東京・ディファ有明で開催されたムエタイの試合でブースを出展し、102,970円の募金が集まりました。ご支援を頂いた皆様、ありがとうございました。





# 子どもたちの時間割

タイ

前号でラオス・カンボジアの教育システムについて紹介しましたが、洪水のため、タイの教育システムについては紹介できませんでしたので、今号で紹介します。

## 【中学1年生の時間割の例】

		月	火	水	木	金
1	9:00~10:00	数学	科学	社会	科学	社会
2	10:00~11:00	タイ語	英語	数学	科学	タイ語
3	11:00~12:00	英語	タイ語	仏教	仏教	数学
	昼食					
4	13:00~14:00	社会/宗教/文化	数学	コンピューター	職業訓練	英語
5	14:00~15:00	保健	歴史	コンピューター	職業訓練	美術
6	15:00~16:00	美術	体育	ボーイ・ガールスカウト	クラブ活動	先生との面談



タイ

小学校6年  
中学校3年  
高校3年  
大学4年制



## ここが日本と違う!

### 母親と先生を尊敬する日

- ① 給食を提供できない学校があり、その場合は生徒がお弁当を持ってくる。家が学校に近い場合は、自宅に戻って昼食を食べる生徒もいる。
- ② 小4から仏教の時間が始まり、お寺や瞑想場に行って仏教の教えを習うこともある
- ③ ボーイスカウト/ガールスカウトの時間では、ボランティア活動について勉強し、実際に活動に参加する（例えば、地域の清掃活動）。
- ④ 母の日（8月12日）には、母親への尊敬の気持ちを高めるため、学校にお母さんを呼び、生徒がジャスミンのお花を献上する。
- ⑤ 6月第2木曜日は先生に尊敬を表す日で、クラス単位で花で飾ったお盆をつくり、先生に献上する。
- ⑥ 金曜日に生徒に伝統的な服を着用させる学校が多い。
- ⑦ 金曜日の放課後、生徒全員で仏陀へのお祈りと歌をうたわせる学校がある。
- ⑧ 掃除は放課後ではなく、授業が始まる前の朝、行う。

## 年間のスケジュール

1学期：5月16日～10月10日  
中間休み：10月11日～31日、

2学期：11月1日～3月31日  
夏休み：4月1日～5月15日、



カンボジアでも  
近年最大級の洪水



お母さんとチャンナ

カンボジアでも洪水の被害は甚大でした。24県中18県に洪水が発生し、人口の約1割に相当する120万人（約33万世帯）が被害に遭いました。また、全国の田んぼの約1割に相当する232,377ヘクタールが浸水して米の収穫量が激減し、今も食料不足が深刻です。

奨学生支援対象県のコンポンチュナン県はトレンサップ川沿いにあるので、洪水の被害は小さくありませんでした。同県に洪水の兆候がみえた8月、不運にも大きな台風が通過し、洪水に拍車をかけました。奨学生チャンナ（小5）の家が冠水したのは夜で、予想以上に冠水が早かったこともあります。必要なものをもって避難することができませんでした。家の中にあったわずかな米、洋服、台所用品、出生証明書、学用品、さらに水を貯める3つの瓶のうち2つが流されてしまいました。

チャンナの両親は子ども8人のうち下の3人を避難所になっていた学校にあづけ、チャンナを含む5

## 両親の期待を背に ボートで通学した奨学生チャンナ

人が冠水した家で生活しました。両親は木を切って売る仕事をしていましたが、森に行くことができないため収入がなく、家には食べ物もありませんでした。政府からわずかばかりの現金を得て、米を買いましたが、15日分しか購入できず、食事を1日2回から1回に切り詰め、水だけで暮らした日もありました。

現在、洪水は引きましたが、貧困状態は変わりません。農村部には恒常的な仕事がなく、収入は不安定です。「だからこそ、チャンナをはじめとする子どもたちには、できる限り教育を受けてもらいたい。親として出来る限りのことをします。そして毎月きちんと給料のもらえる仕事についてもらいたい」と両親は語ります。チャンナはその期待に答えようと、洪水中もボートを漕いで必死に学校に通いました。



## 信州で「キング牧師を偲ぶ」コンサートを開催、その収益金を寄付

三浦 久

第1回キング牧師の日チャリティーコンサートが行われたのは2009年1月18日のことで、今年の1月15日に4回目が開かれた。

このイベントは、私が歌う「I Have a Dream」という歌をYouTubeで聞いたアメリカ人英語教師スザン・ブランツさんからメールをいただいたところから始まった。そこには、「キング牧師の日」前後に、彼を偲ぶイベントを開催できないか」と書かれていた。「キング牧師の行為と思想は、アメリカのためだけではなく、全世界のものです」という彼女の言葉に共感し開催を決意した。彼女から国際センターを紹介され、収益金をカンボジアとラオスの子どもたちの就学支援に送ることにした。

今年も素晴らしいコンサートになった。東京外大名



歌をうたう三浦さん

誉教授の荒このみさんのスピーチ「キング牧師とマルコムX、そしてバラク・オバマ」は感銘深く、東北被災地支援に4回も赴いた伊那北高校ALT（外国語指導助手）のダニエル・ピアスさんの報告も「自分たちよりも恵まれていない人たちに手を差し伸べたい」というスザンの思いと一致し、共感を呼んだ。

そして何よりも無償で参加してくれた多くのミュージシャンのおかげでコンサートは大いに盛り上がり、最後はみなでWe Shall Overcomeを歌って終了。

信州の小さな田舎の町で、僅かではあるが恵まれない子どもたちの支援ができることに感謝したい。  
(2009年以来、23口のご支援をいただいてあります)

## 書き損じハガキで奨学金

# 100円募金で 民際の活動を支援

OKIは、電話機の国産化に取り組んだ日本初の通信機器メーカーとして、2011年に創業130周年を迎えました。創業時の「進取の精神」のもと、「情報社会の発展に寄与する商品を提供し、世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献する」ことを企業理念としています。また1996年には社会貢献の基本理念・基本方針を制定し、「できることからはじめよう！」をスローガンにさまざまな社会貢献活動に取り組むとともに、社員一人ひとりの人間性の発露としてのボランティア活動を推奨・支援しています。

民際センターとの関係は、1997年に当時の社会貢献推進室が書き損じハガキを送ったことから始まりました。以来毎年、OKIグループを挙げて実施する



**OKI愛の100円募金**

ダルニープレートの左側ヘッダーに「OKI愛の100円募金」の協賛でダルニープレートを作成した旨の文言が記されています



沖電気が集めている書き損じハガキ

「年末・年始収集キャンペーン」のなかで集まった書き損じハガキにより、「ダルニー奨学金」を継続的に支援しています。2011年度は、タイの中学生5名とラオスの小学生1名を支援させていただきました。

一方、OKIグループの社会貢献活動を特徴付けるものとして、誰もが気軽に参加できる寄付型ボランティア活動「OKI愛の100円募金」があります。これは、活動の主旨に賛同するグループ会社（2012年1月時 点で24社）の役員・社員から毎月100円の募金を集め、これを原資に、社員が関わりをもつボランティア団体の支援などを実施するものです。2011年度は18団体に対し、合計180万円の支援を行いました。

民際センターは、この「100円募金」による支援先の一つでもあります。2001年から継続して支援しており、2011年度の支援金は「ダルニー奨学金」のパンフレットやダルニープレートの作成、さらには奨学金の広報活動にもご利用いただきました。

書き損じハガキと社員の100円募金。いずれも社員一人ひとりの小さな取り組みの積み重ねですが、民際センターとの協働により、それが子どもたちの支援に着実につながっています。「できることからはじめよう！」。OKIグループは今後も、この取り組みを継続していく所存です。

## 書き損じハガキ等で国際協力

書き損じハガキや未使用切手・テレカ、古本や使用済みインクカートリッジなどを集めて民際センターの事務所までお送りください！少數でも結構です！換金後、奨学金など現地支援に活用させていただきます。

送り先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F  
一般財団法人 民際センター

# 「サラリーマン文化芸術振興会」の支援活動



## 会員が楽しく交流しながら、 タイ・ラオス・カンボジアの 子どもたちを支援

趣味や特技を持つ人や持ちたい人、それを通じて仲間作りをしたい人が集まって自由に楽しみを共有し、人生を豊かに拓いていく。それが「サラリーマン文化芸術振興会（通称サラ文）」の活動目的で、会員は現在約150名。各種楽器演奏、歌、踊り、マジックなどのパフォーマンスや、古文書（の読書会）、詩吟、俳句、歩きながらの歴史探索から食べ歩き、古書カフェ

など、まず会員が手を挙げ、それに他の会員が参加する仕組みで、毎月10を超える活動を行なっています。

最近では会員向けの活動に加えて、福祉施設などを訪問して一緒に歌を唄ったりするボランティア活動が人気を集めています。交流の楽しさとともに、生き甲斐を感じることができるからです。

ダルニー奨学生への支援は1998年にスタートし、毎年3~10名の奨学生を支援。これまで64名の子どもたちを支援してきました。支援の方法は、毎月発行している会員向けのニュースレター「サラ文通信」で1口2,000円の募金を呼びかけます。また、同会が主催する忘年会などの集まりでも募金をお願いします。このようにして寄付を集め、2011年度はカンボジアの奨学生7名を支援しました。「お金を寄付して終わりではなく、支援した子の顔が見られるというのは継続している理由です」と会長の大八木さん。「背広兵から悠遊人へ」「個々の生き方に未来あり」をスローガンに1992年に発足した同会は本年満20年になります。楽しく交流しながら、これからも人と人とのつながり、人と社会とのつながりを広げ、深める活動を続けます。

## 100円玉に込めた「心意気」

遠州ドナー連絡会 畑 寛和

昨年末、指導している静岡のバレーボール教室の子どもたちが100円玉を握りしめて、ダルニープレートに入れてくれました。それはこんな話をしたからです。

私は以前、勤務していたパイオニアがタイの工業団地に工場を持っている関係で、かつての同僚から情報を入手しています。さて、日系企業が数多く立地するタイの7つの工業団地が水没、被災した日系企業は数百社に及びました。アユタヤ近くのロジヤナ工業団地は、ダルニー奨学生を支援している会社が多いところですが、これらの工業団地で10万人以上の労働者が一時的に職を失い、特にイサーン（東北地方）からの出稼ぎ者が子ども達に送金できず、子どもたちは学校に通うことができなくなってしまった



まいりました。彼らの夢や将来が直撃された形です。

私はタイ・ラオスの子どもたちに奨学生を提供し続けて10年になります。毎年、現地を訪問しては、奨学生を提供している子どもたちと会うのを楽しみにしています。昨年は東日本大震災に対して、ロイエット県に在住する友人や奨学生たちから「日本の皆さんのお役に少しでも役立てば嬉しいです」の言葉が添えられて10万円を超える募金が寄せられました。けっして裕福ではない生活の中から、日本へのお礼として募金を出してくれたのです。今度は私達がお返しをする番です——。

集まった募金は2名分の奨学生となりました。募金してくれた子ども達の心意気、嬉しいですね。

# ～ サポーターズNOW! ～

## 熊本で「スマイルドナー連絡」が発足 熊本県の皆さん、ぜひご参加ください！



未来を考えたとき、教育が一番大切だと考えています。私の小さな活動で少しでもお役に立ち、就学の望みが叶えられるのであれば、小さなお手伝いをさせていただきたい。

熊本県に連絡会がないので、今回、立ち上げることにしました。子どもたちに笑顔を送りたいと思います。活動としては、まずダルニープレートを知人や近隣のお店などに置いてもらう活動から始めたいと思います。  
世話人：松本和也 連絡先/TEL090-8669-3345、FAX096-222-7367、Email:kzy1@hotmail.com

## 神奈川県の聖徳山三寶寺が2年連続で チャリティ歌謡ショー開催！

神奈川県伊勢原市の聖徳山三寶寺は、社会貢献活動としてNPO「法人足跡の会」を設立し、ラオスに学校を建設する決定をしました。そして、チャリティ歌謡ショーやバザーなどで着々と建設資金を集めています。



1月14日、伊勢原文化会館小ホールで開催された今回のコンサートは、昨年に続き2回目。ラオス大使館や伊勢原市、伊勢原市商工会議所などから協賛を受け、プロの歌手や芸能を披露するグループによるパフォーマンスなどで会場は盛り上りました。

歌謡ショーに先立って冒頭、住職の目崎氏は「到達金額はまだまだですが、これからも目標を目指して頑張ります。お慈悲の心で、皆様もぜひご支援を」と挨拶。その後、民際センターのスタッフがラオスの校舎建設について15分間説明しました。



## ドナー同士の交流を深めた2日間でした！

昨年11月26、27日の2日間、山梨県甲府で全国ドナー連絡会「甲州和飲会議」が開催されました。今年は1部で、民際センター理事で作家の阿刀田高氏が「国際化ことば」と題した講演をされました。第2部では各地域より50名のドナーが参加し、様々な活動報告をしました。特に、ラオス国際交流の旅に参加した山梨英和の生徒の発表や山梨ろう学校の生徒の支援活動報告は多くの参加者の胸を打つものでした。スタートしたばかりの福岡県のドナー連絡会も参加され、会議だけではなく夜の食事会やワイン工場の見学を通じて親睦を深めることができました。来年は長野県佐久平での開催が決まりました。今年参加できなかったドナーの方、来年は佐久平で待ってます！

## 「ほほえみの会」の仲介で、 民際センタースタッフが小学校で講演

山梨県都留市で活動する「ほほえみの会」の渡辺さんは、同市のボランティアセンターをはじめ、貯金箱を置いていただいているお店などを車で定期的に



周り、募金や書き損じはがきなどを集めて民際センターに送っています。インクカートリッジを集めている同市の谷村第2小学校も、渡辺さんがダルニー奨学金の支援をお願いしている学校です。2009年に続き昨年12月、渡辺さんの仲介で民際スタッフが同校で2回目の講演をし、ラオスに子どもの現状について講演しました。1年生から6年生まで総勢約120名。1年生や2年生も30分間真剣に話を聞き、生徒から質問の手が次から次へと上がりました。

## 連絡会交流報告

冬の北海道旅行をしてきました。函館到着後すぐに札幌の連絡会「ぶらいさに～」のなっちゃんに「明日札幌に宿泊するので晩飯ご一緒しませんか？」と電話。「なっちゃんに会うのは、佐久市で連絡会の全国大会開催以来だから5年ぶりかな？」とドキドキしながら待ち合わせ。美味しい刺身や焼き魚で旨い酒を飲みながらお互いの活動状況について意見交換。今年の連絡会の全国大会は佐久ダ連が幹事なので是非参加して欲しいと懇願し、ラオスの研修ツアーに参加するので研修旅行の心得やサジェッションを頂き、久しぶりの交流は楽しい時間が過ぎていきました。

(佐久平ドナー連絡会 柳沢光一)

## 甲府で全国ドナー連絡会開催

# 事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様のお問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

## 地域で奨学生や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ②使用済みインクカートリッジの収集
- ③パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので是非ご覧ください。

## 奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ（13分）。パネルを貸し出すこともができます。送料は負担願います。

## 個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします（3～5月と10月は学校がお休みのため訪問できません）。

## タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。  
②：タイ切手セット（12回分1000円）の代金は郵便定額小為替か現金でお願いします。  
80円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

## 民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールで担当、窓口までお問い合わせください。

## 奨学生の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

## タイの奨学生にプレゼントしたい

80円切手を貼った返信用の封筒をお送りください（メール可）。折り返し、資料をお送りします。申し込み締め切りは4月6日（金）です。プレゼントは原則として中学生が対象です。

## 毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙（ゆうちょ銀行）を無料で送付します（タイのみ）。

### 編集後記

9月のタイに続き、11月に2週間ラオスに出張し、3つの村に泊まりました。その1つの村は2年ごとに訪ねているため、変化・発展の進み具合がわかります。村に電気が入り、テレビが普及し、バイクが増え、冷蔵庫や洗濯機を持っている家も数軒。電気代やガソリン代の支払いなど、自給自足から現金経済に移行しているのがよくわかります。この移行で村内の人間関係がどのように変わっていくでしょうか？ 例えば、以前、こんなシーンがありました。村に1台だけあるテレビを観ていた村人に帽子が回ってきました。テレビの所有者が儲けようとしたわけではなく、電気代を割り勘にするため、費用を平等に分担しようとする微笑ましい光景ですが、楽しみには現金の支払いを必要とすることを象徴しています。しかも、そのテレビで、都会の人と同じ商品コマーシャルを見ていきました。首都ビエンチャンの若者はWifiに接続してスマートフォンを楽しんでいますが、農村部ではトイレのない村もあります。隣国タイや中国は大きな貧富の格差に直面していますが、ラオスは同じ轍を踏まず、村の人間関係を壊さないような経済成長の道を歩んでほしい——そう思いながら帰国しました。（富）



一般財団法人  
**民際センター**

ダルニー通信 第65号 2012年3月1日発行 発行人：秋尾晃正  
一般財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F  
TEL：03-6457-5782 FAX：03-6457-5783  
Eメール：info@minsa.org ホームページ：<http://www.minsai.org/>  
振替口座：00150-0-57664  
表紙：ラオス 撮影：渡部 明浩



完成した校舎の外観



天井が高く明るい室内

## SPOT LIGHT

.....

# ラオスに校舎を建設しませんか

ラオスに小学校の校舎を寄贈した支援者の方々は、その校舎が立つ村を訪問・滞在して、子どもたちや村人と楽しく交流しています。



### 富士通ユニティ労働組合：

組合結成10周年の2002年、カムアン県ラマラ村に校舎を建設。翌年には2校目をセコンド県に。以後数回、2つの村を訪問しました。今年は結成20周年で、秋には大勢で村を訪問・滞在します。



### 板倉ラオスの会：

1999年にパクトン村に校舎が完成し、隔年で訪問。これまで7回の訪問で子どもたちの成長を見ました。友人も増え、わずか2泊3日の滞在なのですが、お別れの際には涙を流します。

### 田中五十鈴さん：

奨学金支援から始めて、スタディツアーパートicipantに参加。その旅行で訪問したラオスの人々の素晴らしさに感銘して校舎を建設。以後、何度もラオスを訪問して子どもたちや村人と交流。その度にラオスにハマってしまいます。



### 資料 請求

校舎建設の資料をご希望の方は、電話、FAXまたはEmail (11ページ参照) にてご連絡ください。